

こくみんうさぎ presents 国会のトリビア



国会見学者数は衆参合計で年間約86万人(平成30年)



国会議事堂前庭 47都道府県の木が植えてあります。

国民民主 Press

KOKUMIN MINSHU PRESS

2019年12月9日

国民民主党 国民民主プレス 編集部 〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1
電話:03-3595-9988 (代表) メール:press@minshin.or.jp URL:https://www.dptp.or.jp



←参院本会議場の傍 聴席側の中央にある 天皇・皇后両陛下の御傍聴席。

国会議事堂には「なるほど」と思える意外な見どころがたくさん。衆参両院のそんな見どころを取材し、こくみんうさぎと紹介します。この「号外」を片手に国会トリビア探訪を楽しんでみては？

なくすべての国民、職業の代表が平等に会する場であるという意味が込められているという説も。



←本会議場を囲む記者席の側面にはさまざまな職業を象徴するレリーフが。身分の差など



本会議場



←記者用投函ポスト。かつて本会議場記者席で作成した原稿や撮影した写真のフィルムを投函したポスト。地下で待つ人が受け取り、新聞社へ走った。ポスト番号は記者の席毎に割り振られた。6席ごとに1つ投函口があり、中央のボタンを押して投函を下に知らせるしくみ。



→本会議場天井にあるペンダントライト。ペンダントライト1本ごとにワイヤーでつながれていて、電球の取り換えはワイヤーを伸ばして本会議場床まで下ろして行う。



→本会議場天井にあるペンダントライト。ペンダントライト1本ごとにワイヤーでつながれていて、電球の取り換えはワイヤーを伸ばして本会議場床まで下ろして行う。



↑議長席正面の壁面は布張りになっている。これは議場での議員の音が反響しないように考慮したものと言われている。同時に声が行き届くように考えられている。



↑衆院本会議場の議員席の下には防災ヘルメットが入っている。地震などでスタンドグラスが割れてもこれで身を守れるということで設置された。参院側には常備されていない。



↑傍聴席の椅子が窮屈な感じがするのは昭和初期の日本人の平均的な背丈に合わせて設計されたものだから。背もたれ部分が直角に近いのはかつては姿勢も良かったから？



↑傍聴席は椅子席のほかに立ち見スペースがあり、立って見ることもできる。



↑本会議場入り口横にある議員専用酸素ボックス。議論がエスカレートして興奮した国会議員が呼吸困難に陥ったときなどに吸うための酸素ボンベが設置されている。



↑本会議場入り口付近にある電話ボックス。かつては内線電話をかけるのに使用。携帯電話の普及で不要論もあるが「聞かれたくない」携帯通話をここでする議員も。

構造	地上3階(中央部分4階、中央塔9階) 地下1階。鉄骨鉄筋コンクリート造り		<h2>国会議事堂</h2>
資材	国産品を使うという建築方針に沿って作られ、内装用石材等は33種類の大理石など最高品質の国産品が日本各地から集められた。しかし、スタンドグラスとドアノブや鍵、郵便ポストのみ外国製。		
費用	2570万円(当時)。※現在への単純換算では約900億円? (ただし材料は値段を付けられないほど希少ななもの)		
工事に従事した人員	延べ254万人		
敷地面積	10万3001平方メートル		
建物面積	1万3356平方メートル (延)5万3464平方メートル		
長さ(南北)	206.36メートル		
奥行(東西)	88.63メートル		
高さ(屋上)	20.91メートル		
高さ(中央塔)	65.45メートル		
敷地の海拔	本館前で26.66メートル		
議事堂の総重量	10万9千トン		

1920年(大正9年)1月に着工、17年の歳月をかけて1936年(昭和11年)11月に完成。当時の建物としては日本一の高さを誇り、永田町の高台に美しいみかげ石で装われた議事堂が「白亜の殿堂」と賞賛されたという。同年12月24日に召集された第70回帝国議会から使用され、現在に至る。

鉄骨	9810トン
鉄筋	5522トン
石材	花崗石・2万5500トン 大理石・2800トン 日華石・106トン
セメント	2万7446トン
砂・砂利	7万8572立方メートル
木材24種類	4815立方メートル



常任委員長室は安土桃山時代の建築様式が随所に。天井、蝶つがい、絹を張り巡らせた壁面など、建築技術の粋を極めている。かつてはテーブルに灰皿完備だったが今は撤去。



常任委員長室



御休所



↑御休所前の廊下から中央玄関へ続く階段手前にある可動柵。開会式の日に天皇陛下をお迎えするときにだけこの可動柵が外され、玄関へと続く赤いじゅうたんが敷かれる。可動柵には貴族院の焼き印があり、その当時から使われていたことがわかる。



←衆院正面玄関に並んで建つ尾崎行雄像と三木武夫像。最初は尾崎像だけだったが、三木の衆院議員在職50年を機に二つの胸像が並ぶことになった。

衆院正面玄関

→中央広間の壁の四隅には日本の四季「吉野の千本桜、夏の十和田湖、奥日光の紅葉、日本アルプスの冬景色」をイメージしたとされる壁画が。陶器のモザイクにする計画もあったが予算の関係でこれになったという説も。
↓中央広間は議事堂で一番高い中央塔の真下にあり、2階から6階までの吹き抜けになっていて天井までの高さは32・62メートル。これは法隆寺の五重の塔がちよつと入る高さ。



←参院議長の机の右手に置いてある木槌。本会議を始めるときに議長がトントンと叩いて開始を知らせ、議場の議員に静粛を求める。参院だけで使われるもの。

参観ロビー・庭

→明治時代に貴族院議場に置かれていた御椅子。開院式のときに天皇陛下がお座りになった。参院参観ロビーに展示。



←中庭にある池の中央部分には本会議場と地下で繋がりが外気取り入れ口となっていた。水を吐き出している獅子頭の顔はすべて違う表情となっている。



中央広間



↑中央広間を彩るスタンドグラスはイギリス製。色ガラスを縁取る部分が鉛製のものがイギリス流で、ちなみにアメリカ流は銅板。建設当時、大がかりなスタンドグラスを作る技術が日本にはなかった。



↑中央広間天井はマスの部分だけで50畳ほどの広さがある。この上にGHQがダンスパーティに使用した等々諸説あるホールが。さらに中央塔最上階に通じるらせん階段がある。

←中央広間には議会政治の基礎を作ったとされる板垣退助、大隈重信、伊藤博文の銅像。四つ目が台座だけなのは「将来への持ち越し」「政治に完成はない、未完の象徴」との諸説が。

議事堂の歴史

1881(明治14)年10月12日に国会開設の勅諭が発せられた後、議事堂建設の機運が高まり、86年2月、内閣に臨時建築局が設けられた。同年4月にはドイツ政府に委嘱して技師を招くと同時に、日本からは技師と職人をドイツに留学させた。しかし、設計段階から難航した議事堂建設計画は財政問題を理由に見送られ、代わって仮議事堂が建設された。1936(昭和11)年11月7日に現在の国会議事堂が完成するまで3次にわたって仮議事堂が現在の経済産業省の敷地に建設された。



■第1次仮議事堂
1890(明治23)年11月24日(第1回帝国議会召集日の前日)竣工。翌年1月20日未明焼失。漏電が原因と見られている。



■第2次仮議事堂
第1次仮議事堂の焼け跡に1891(明治24)年10月竣工。玄関が貴族院・衆議院に分けられた。1925(大正14)年9月18日焼失。



■第3次仮議事堂
1925(大正14)年12月22日竣工。木造洋風2階建。現在の議事堂が完成した1936(昭和11)年まで使用された。

→中央塔4階のスタンドグラス裏の国会4階部分には国会図書館分館があり、地方紙を含む新聞各紙はじめ多くの書籍が揃っている。



→「議事堂内で化石発見！」中央広間に使われている沖縄県から運ばれたサンゴ石灰岩には巻貝の化石が。カットして使われているので柱の窪みにそって左右対称の姿が確認できる。

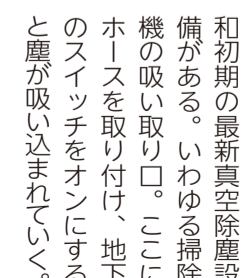


←参院側は「今どき」の火災報知器。デザインも見慣れたタイプ。
→衆院の火災報知機。「火災の時ガラスを破り」と右から左への表示が時代を感じさせる。現在も現役で活躍中。



廊下

→米国製のポスト。投函すると地下まで郵便物は落下し、土目を含め集荷される。建物内のこのポストは特許が壁になり国内産にできなかったため米国製を使用。



→国会議事堂廊下には昭和初期の最新真空除塵設備がある。いわゆる掃除機の吸い取り口。ここにホースを取り付け、地下のスイッチをオンすると塵が吸い込まれていく。



◎参議院見学受付
TEL 03-5512-3939
TEL 03-5521-7445
◎衆議院見学受付
TEL 03-5581-5111(内線) ext.71, ext.72
◎参議院見学の案内
テープによる案内
◎参議院見学の案内
警務部係
◎衆議院見学の案内
警務部係